

内閣参質一〇二第一五号

昭和六十年一月二十五日

内閣総理大臣 中曾根康弘

参議院議長 木村睦男殿

参議院議員秦豊君提出米国の戦略防衛構想(SDI)に対する日本政府の基本的認識に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

参議院議員秦豊君提出米国の戦略防衛構想(SDI)に対する日本政府の基本的認識  
に関する質問に対する答弁書

一から十までについて

米国の戦略防衛構想(以下「SDI」という。)は、弾道ミサイルに対する非核の防衛的手段を講ずることにより弾道ミサイルを無力化し、ひいては核兵器の究極的廃絶を目指すものであると承知している。また、SDIは、二十一世紀をも見越した極めて長期的な構想であり、現在、研究の段階にあると承知している。

政府としては、SDIがこのような目的を有するものであることにかんがみ、米国がSDIの研究を進めることについて理解を示したものであり、今後米側から情報の提供とともに必要に応じ協議を受け、政府としていかなる対応をしていくかについては、平和国家としての我が

国の基本的な理念を踏まえて、自主的に検討していく所存である。いずれにせよ、SDIは極めて長期的な構想であることもあり、現時点でSDIの今後の推移の見通しや政府としての具体的な対応について述べることは差し控えたい。

なお、米国政府は、SDIの研究は米国の締結している条約に違反するものではない旨及び同盟国の防衛に対する米国のコミットメントには何らの変更もない旨明らかにしているところである。